

樹木の分布

56期生

I テーマ設定の理由

5月に行った修学旅行のテーマ活動で、僕は乗鞍と大阪の自然を比較するため、このテーマについて調べた。その時は木の種類の違いについて特に調査したが、僕はそこで「木の種類を見分けること」の難しさを痛感した。そこで今回、木の見分け方について詳しく知るため修学旅行のテーマを継続した。また、公園での木の分布を調べるだけでなく、なぜその木が街路樹として植えられているのか、その生育している木に適した気候は何か、などテーマ活動の時よりもさらに踏み込んで調査しようと思ったのも、このテーマを続けることにした理由の一つである。

II 研究方法

1. 図書館などに行き、樹木の図鑑や見分け方に関する本を借りてきて、木についての理解を深める。
2. 木について十分に知ったところで外へ出てみて、家の近くの公園に生えている木の種類を調べることで、木を見分けるためのポイントを探る。
3. 大阪城公園でも実地調査を行う。
4. 2や3で見つけた木について詳しく本で調べ、その木が公園に生育していた理由を考察する。

III 研究内容

1. 木を葉で見分ける

(1) なぜ葉なのか？

木を見分けるためにはそれぞれの特徴が出やすい場所を観察するのが良い。葉は葉脈など一番特徴が出やすい。だから葉で木を見分けるのである。

(2) 見分ける手順

木（ここでは広葉樹）は図1の様に大きく6つのグループに分類される。常緑樹と落葉樹は冬葉が落ちるか落ちないかの違いだが、実は夏でもどちらかを見分ける事ができる。

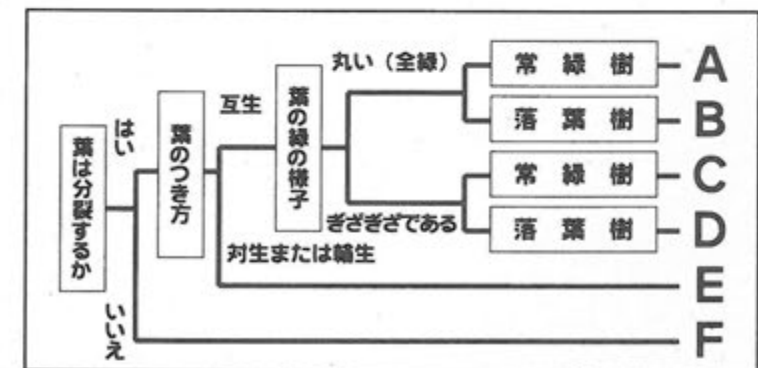


図1 木の分類の仕方

葉が革のように厚いのが常緑樹、紙のように薄いのが落葉樹である。

これでとりあえず6つのグループに分類されたが、それぞれのグループの木が多すぎてその中のどの木なのかはもちろん分からない。そこでもっと細かく分類する。

Aグループの木の例としてはクスノキが挙げられるが、その見分け方は簡単である。ポイントとなるのは葉脈である。クスノキの葉脈は葉の根元から大きな3つの葉脈が出ている。これを「三行脈」と言う。Aグループで三行脈の葉をもつ木といえばほぼクスノキである。これはクスノキの場合だが、Aグループの木は葉脈の様子→葉の裏の色→葉の透視性（葉を光にすかす時の見えやすさ）の順に観察して分類すると、葉を見ただけでおおよそ木の名前がわかる。

Bグループの見分けるポイントはAとは違う。まず葉脈を観察するのは同じだが、落葉樹の葉はすべて透視性良好であるので、Aと同じ方法では分類できない。そのかわり小枝のにおい、毛の有無などを用いて木の名前の候補をしぼる。写真2のハクモクレンは小枝にはちまき状のあとがあるのが特徴で、それによって見分けることができる。

C・Dは葉の縁にぎざぎざがあるが、これをきょ歯と言う。きょ歯は葉脈と同じく葉の特徴の一つであり、木の名前を見つけるときとても役立つ。Cの代表的な木はシラカシでDの代表的な木はサクラ・ケヤキなどである。

Eグループは葉が枝の同じ節から2枚以上出ている木であり、このような生え方を対生（2枚）、輪生（3枚以上）と言う。写真3は対生のサルスベリである。Eグループの木は数が少なく、分類しやすい。きょ歯の有無や葉脈の基本的な形ですぐ木の名前がわかる。

Fのグループはほとんどカエデ類で、分裂する数によって木を見分けることができる。

どのグループにしても、葉の様々な性質を生かして木を分類することができる。すべての木は必ずその木特有の性質というのを必ず持っている。だから木を見分ける際は、そうした特有の性質をうまく見つける鋭い観察力と、じっくりと葉をながめる根気が大切である。

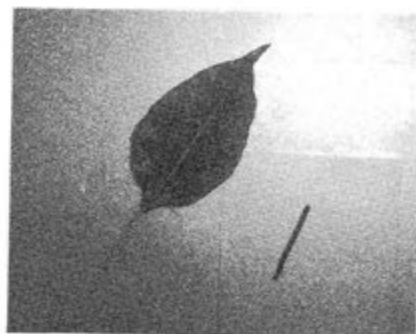


写真1 クスノキの葉

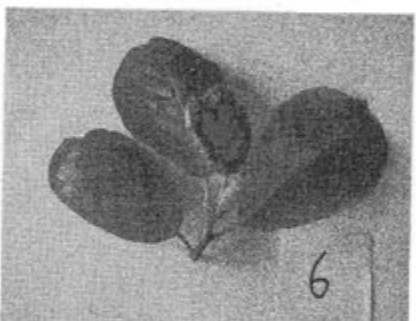


写真2 ハクモクレンの葉

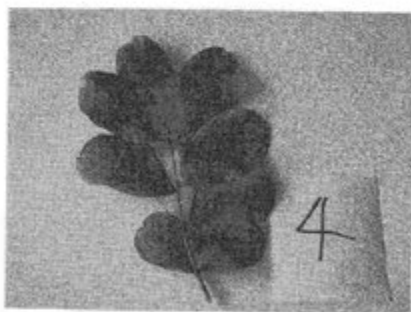


写真3 サルスベリの葉

2. 実地調査

(1) 近くの公園の木や街路樹

木の見分け方がわかったので外へ出てどんな種類の木が植えられているのかを調べた。また、その木について図鑑で詳しく調べた。

① クスノキ (写真4)

修学旅行のテーマ活動で大阪を調べた時もクスノキが植わっていたが、家の近くの公園の木もやはりクスノキだった。クスノキは昔、ショウノウ（防虫剤などに使われている）をとるため人々が植えていた。そのためか今でも人の多い地域によく生育する。

② イチョウ (写真5)

大阪府の木はイチョウである。イチョウは寿命が長く、各地に大木がある。その背の高さや紅葉がきれいなことから、公園や街路樹として非常によく利用される。家の近くの公園では街路樹としてクスノキとイチョウが交代交代に植えられていた。

③ サクラ (写真6・7)

サクラと一口に行っても、たくさんの種類のものがある。ソメイヨシノが代表的だがこの木は違う種類である。マンションの周りに植えられていた。

④ サルスベリ

これもサクラと同じくマンションの周りにあった。夏には紅と白の花が咲き、観賞用に植えられる。

⑤ ハクモクレン

大阪市城東区の区の花である。春には白い花を咲かせる。庭によく植えられ、山には生育しない。

⑥ ポプラ

外国産の木だが、育ちが良いという理由で日本にもたらされた。

国道沿いに植えられている。葉がひし形で特徴的である。

⑦ その他

ハナミズキ・トウカエデ・ヤマモモ・シラカシ・カイヅカイブキ・ソテツなども植えられていた。

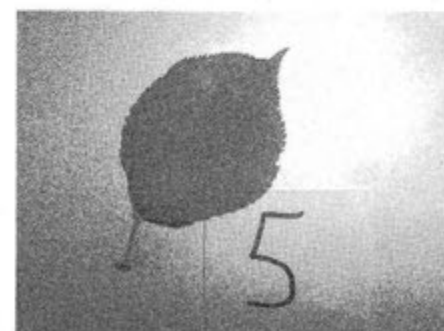


写真7 サクラの葉



写真4 クスノキの木



写真5 イチョウの木



写真6 サクラの木

(2) 大阪城公園での調査

次に家の近くの木と比較するため、大阪城公園でも同じ様にして実地調査を行った。ただし、大阪城公園は広いので3日かけて調査を行った(図2参照)。

① 1日目

この日調べた場所は大阪城公園内でも人通りが多い所である。だから誰もがよく目にするような有名できれいな木がたくさん植えられていた。

まずはクスノキである。駅前の道路沿い、公園内の森など様々な所に植えられていた。

次にイチョウ。天

守閣の外堀に沿って道があるのだが、その両側に高さ15m程のイチョウが等間隔に植えられ、とても美しく整備されていた。やはりクスノキとイチョウは大阪ではどこへ行ってもだいたい見られるようである。

他にももちろんたくさんの種類の木があった。写真8・9はケヤキの木と葉である。葉が2枚あるが、大きい葉は日なたのケヤキ、小さい方は日陰のケヤキである。ケヤキは葉がとても特徴的な木で街路樹としてよく利用されるが、家の近くには無かった。また、クロマツの盆栽などや堀のそばのシダレヤナギなども、普段はあまり見かけない木である。結局1日目は10種類ほどの木を見つけた。

② 2日目

2日目調べた場所は1日目の場所とは違って人通りが少なく、静かな場所である。また木が密集している場所が多く、うす暗い場所も比較的多いので1日目とはまた異なる樹木を見つけることができた。

まず森ノ宮駅を出て広場につながる

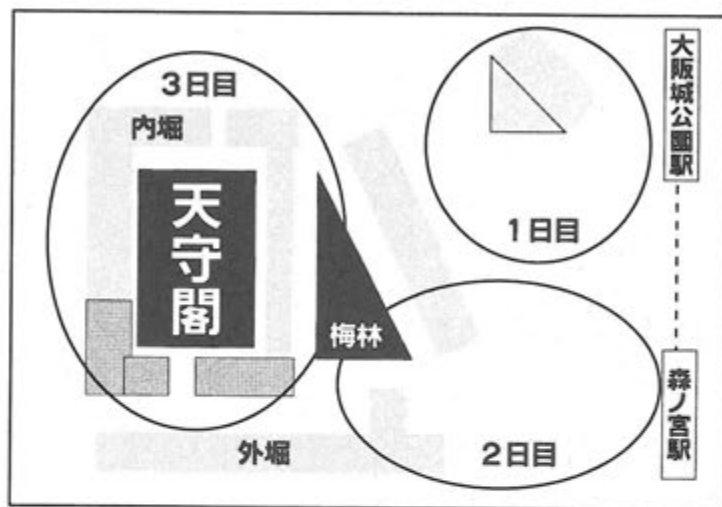


図2 大阪城公園内の概略図



写真8 ケヤキの木

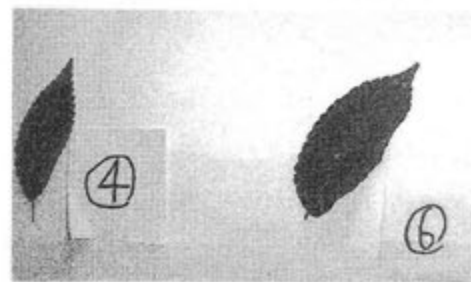


写真9 ケヤキの葉

道に植えられていたのがカイツカイブキだ。この木はイブキという木の園芸品種であり、公園や洋風の庭園によく見られる。家の生け垣として四角い形に整えられることもあるが、大阪城公園では円錐型であった。

さらに天守閣の方向へ歩くと、この辺りではあまり見かけない木に出会った。まずはマテバシイだ。マテバシイはもともと九州に自生していたが、やがて他の地方でも植えられるようになった。葉は革のように分厚く、葉の上部が幅広いのが特徴だ。次に立派なクロマツが植えられていた。1日目の調査ではクロマツの盆栽が道沿いに置かれていたが、このクロマツは高さ20メートルほどの木である。クロマツは針葉樹であり、葉は針のように鋭くとがっている。また、ピンクの花を咲かせるキョウチクトウも生育していた。もともとインド原産のこの木だが、観賞用として日本にもたらされた。この木はとても生命力が強く、乾燥や大気汚染にも強いので急速に全国へ広がっていた。しかしその結果、もともと生育していた日本産の木が減少していることが問題となっている。

その他、シラカシやモモ、梅林では梅なども植えられていたが、一番印象に残ったのはエノキである(写真10・11参照)。高さも20~25メートルで高いが、それ以上へ横に枝を広げていた。エノキの葉は上半分だけにきょ歯があり、少し変わっている。



写真10 エノキの木

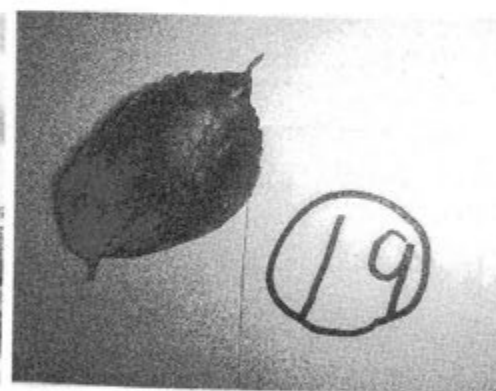


写真11 エノキの葉

③ 3日目

最終日は天守閣や内堀の周りで調査を行った。1・2日目よりは樹木の本数が少なかったが、アオギリという少し変わった木を見つけた。アオギリの葉は非常に大きく20センチメートルよりも大きい。また意外だがアメリカハナミズキも内堀の周りに植えられていた。日本の伝統ある城の周りに外国原産の木が植えられているのは寂しいことだと思う。もちろんクスノキは植えられていたし、大阪城の歴史とほぼ同じ樹齢400年のイチョウも大切に保存されていた。

3. 全国の街路樹

最後に、大阪だけでなく全国の街路樹について本で調べ、それぞれの地方の木の傾向を調査した。主な県の街路樹は次の通りである。

北海道……ナナカマド・イチョウ・シラカバ・トドマツ
宮城県……ケヤキ・イチョウ・トウカエデ
東京都……イチョウ・サクラ・マテバシイ
長野県……サクラ・シラカバ・ナナカマド
大阪府……イチョウ・クスノキ・ケヤキ・トウカエデ
広島県……モミジバフウ・クスノキ・サクラ
福岡県……ケヤキ・イチョウ・ホルトノキ・クスノキ
沖縄県……アメリカダイゴ・ホルトノキ・リュウキュウマツ

全国の街路樹を見てみると、寒い地方にはナナカマドやシラカバ、暖かい地方にはクスノキ、暑い地方にはホルトノキなど、それぞれの気候に合った木が植えられている。また、イチョウ・サクラ・ケヤキなどポピュラーな木は全国各地で利用されている。最近では都会を中心にポプラなど外国原産の木が目立ってきている。

IV 結 論

- ・木を見分ける方法としては葉を観察する方法が一番である。葉の厚さ・ヘリの様子・葉脈の特徴・葉のつき方などは木により違うので、その特徴を生かして木を見分けることができる。
- ・日本は縦に長い形をしているので、気候が大きく違い、その結果、様々な種類の樹木が道や公園に植えられている。
- ・大阪は都会で木は少ないが、それでも公園には様々な木が植えられている。また、大阪城公園などの人が大勢集まる場所では、普段見かけない樹木も多く、見る人を楽しませてくれる。

V 総 括

樹木には不思議なパワーがあると僕は思う。美しい花は見る人を楽しませ、明るい緑は心を安らかにしてくれる。しかし、最近は管理がしやすい・コストが安いという理由で外国原産の木が多く利用されている。このままではその土地にもともと生育していた樹木が減り、全国どこでもイチョウ・サクラ・ポプラなど同じような木しか見られなくなってしまう。そうではなく、昔から生育している樹木やその土地の気候に適した樹木を守っていき、それぞれの町の個性を出していく事も必要だと思う。

木は人間と同じく個性を持つ生き物である。そのことを忘れないでほしい。

VI 参考文献

- ・検索入門シリーズ 針葉樹 中川重年著 保育社
樹木①、② 尼川大録 長田武正 共著 保育社
- ・日本の樹木 解説 加藤儔重
庭木、野山の自然木428種 写真 会田民雄 成美堂出版

北海道……ナナカマド・イチョウ・シラカバ・トドマツ
宮城県……ケヤキ・イチョウ・トウカエデ
東京都……イチョウ・サクラ・マテバシイ
長野県……サクラ・シラカバ・ナナカマド
大阪府……イチョウ・クスノキ・ケヤキ・トウカエデ
広島県……モミジバフウ・クスノキ・サクラ
福岡県……ケヤキ・イチョウ・ホルトノキ・クスノキ
沖縄県……アメリカダイゴ・ホルトノキ・リュウキュウマツ

全国の街路樹を見てみると、寒い地方にはナナカマドやシラカバ、暖かい地方にはクスノキ、暑い地方にはホルトノキなど、それぞれの気候に合った木が植えられている。また、イチョウ・サクラ・ケヤキなどポピュラーな木は全国各地で利用されている。最近では都会を中心にポプラなど外国原産の木が目立ってきている。

IV 結 論

- ・木を見分ける方法としては葉を観察する方法が一番である。葉の厚さ・ヘリの様子・葉脈の特徴・葉のつき方などは木により違うので、その特徴を生かして木を見分けることができる。
- ・日本は縦に長い形をしているので、気候が大きく違い、その結果、様々な種類の樹木が道や公園に植えられている。
- ・大阪は都会で木は少ないが、それでも公園には様々な木が植えられている。また、大阪城公園などの人が大勢集まる場所では、普段見かけない樹木も多く、見る人を楽しませてくれる。

V 総 括

樹木には不思議なパワーがあると僕は思う。美しい花は見る人を楽しませ、明るい緑は心を安らかにしてくれる。しかし、最近は管理がしやすい・コストが安いという理由で外国原産の木が多く利用されている。このままではその土地にもともと生育していた樹木が減り、全国どこでもイチョウ・サクラ・ポプラなど同じような木しか見られなくなってしまう。そうではなく、昔から生育している樹木やその土地の気候に適した樹木を守っていき、それぞれの町の個性を出していく事も必要だと思う。

木は人間と同じく個性を持つ生き物である。そのことを忘れないでほしい。

VI 参考文献

- ・検索入門シリーズ 針葉樹 中川重年著 保育社
樹木①、② 尼川大録 長田武正 共著 保育社
- ・日本の樹木 解説 加藤儔重
庭木、野山の自然木428種 写真 会田民雄 成美堂出版